

岐阜女子大学では、日本で唯一 デジタルアーカイブを 専門的に学ぶことができます。

「デジタルアーカイブ」は、過去や現在の価値ある資料を役立てるために、映像や音声、テキスト、図形等をデジタルデータとして案内情報〔メタデータ〕をつけて保存・伝承し、国内・世界の利用者に発信し、資料の提示や知的生産に利用できる知識基盤社会を構成します。今後、地域創生、観光、教育、産業、防災等に広く活用できます。

デジタル
アーカイブの
活用

1

冊子や
WEBサイトで
資料を提供する

2

過去の資料を
分析して、
課題を解決する

デジタル
アーカイブに
必要な力

1

資料の歴史的、
文化的背景を
知る力



2

資料を正確に
収集・記録し、
伝える力



3

国内外で共通
利用できる
資料をまとめる力



未来を拓く
新しい発展

- ① 岐阜女子大学のデジタルアーカイブ活動
- ② デジタルアーカイブの日本の現状と今後の方向性
- ③ デジタルアーカイブ学会の設立
- ④ 未来を拓くデジタルアーカイブ

平成29年度から5年間

文部科学省私立大学研究ブランディング事業に選定！
「地域資料デジタルアーカイブによる地の拠点形成のための基盤整備事業」

デジタルアーカイブ専攻

① 岐阜女子大学のデジタルアーカイブ活動

本学デジタルアーカイブ研究所は多様なデジタル資料を保管し、文化創造学部・大学院文化創造学研究科で研究利用されています。

宇佐神宮と手向山八幡宮



左から；宇佐神宮本殿一之殿八幡作り／手向山八幡宮との関わりが記された碑／手向山八幡宮校倉造りの宝庫／手向山八幡宮内菅原道真の腰掛け石

延年の舞 毛越寺と白山神社



左から；毛越寺（いわき市）二十日夜祭延年の舞 祝詞／毛越寺（いわき市）二十日夜祭延年の舞 老女／長瀧白山神社（郡上市）六日祭延年の舞 田歌／長瀧白山神社宮司 若宮氏のオーラルヒストリー

巻物と古文書の記録撮影



左から；伊奈波神社縁起巻物全体画像／伊奈波神社縁起巻物撮影の様子／慶応四年戊辰夏五月 太政官日誌 第七一

印刷メディアと通信メディアの連携



沖縄おっらいデジタルアーカイブは沖縄全域の地域資料を保管している。これらを用いた「沖縄修学旅行おっらい」は毎年14,000人の高校生が修学旅行の事前・事後学習、現地学習で利用している。

白川郷 和家デジタルアーカイブ



左から；世界遺産白川郷 城山展望台からの眺め 当主和家氏のオーラルヒストリー／和家概観／和家所蔵 上煮 焰硝製法始末覚書と焰硝製造鑑札／春駒

袋中上人による念仏踊りの伝承とその記録



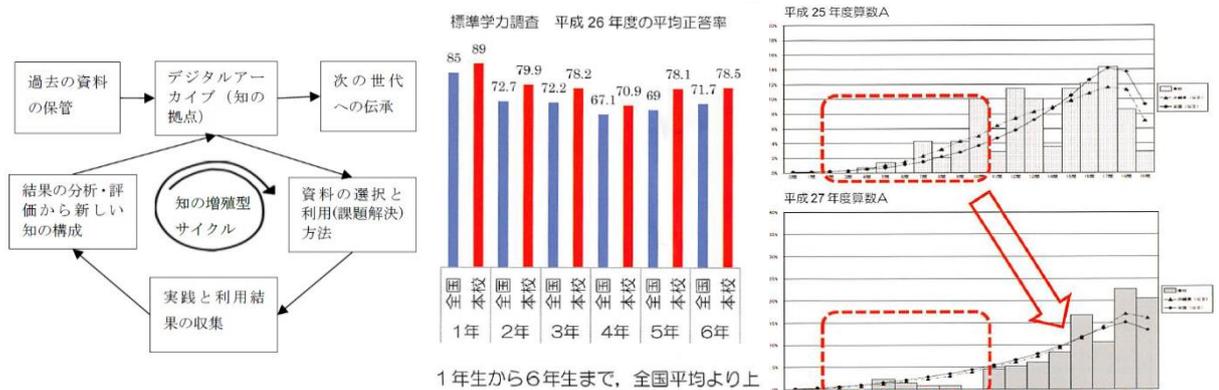
左から；袋中上人の生誕地いわき市のじゃんがら念仏踊り／袋中上人が琉球に伝えたといわれるエイサーの多方向同時撮影とそのカメラ位置図面／平敷屋青年エイサー

木田宏オーラルヒストリー



木田宏先生（元文部省文部事務次官）は昭和21年から戦後の新教育と教科書制度、教育委員会制度などに関係された。本学では木田宏先生のオーラルヒストリーと関連資料等を多数保管している。

デジタルアーカイブの利用による学力の向上



沖縄県A小学校の平成25年度全国学力・学習状況調査算数Aの平均は沖縄県の平均を下回っていた。岐阜女子大学の教育資料デジタルアーカイブ資料を分析し、その研究成果を用いて指導したところ、平成25および26年度の平均は、全国一位の秋田県を上回る結果となった。

● 岐阜女子大学 地域資料デジタルアーカイブ

本学では、北海道から沖縄まで、地域文化のデジタルアーカイブをおこなっています。

全国のデジタルアーカイブ

- 全国に広がる白山文化
- 善光寺（長野県）
- 広島平和記念資料館（広島県）
- 【岐阜県】
- 長良川上・中・下流
- 世界遺産白川郷 和田家
- 飛騨高山 古い町並
- 飛騨の民話
- 飛騨の匠
- 南宮大社拝殿天井絵
- 輪中 他多数（MAPは一部）

沖縄のデジタルアーカイブ

- 首里城跡（首里城公園）
- 座気味城跡
- 斎場御嶽 その他 世界遺産
- 戦中戦後のオーラルヒストリー
- 旧海軍司令部濠
- 沖縄の衣食住
- 琉球村
- 琉球料理レシピ
- 琉球舞踊
- 組踊
- 琉球音楽
- 沖縄空手
- 焼物
- ミンサー
- 紅型
- 八重山諸島 他 多数（約2万件）



*「我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性」に対応した研究活動をすすめています。

● デジタルアーカイブの取り組み



紙資料（図書・古文書など）のデジタルアーカイブは、図書館や企業などで最も基本的な仕事です。いろいろな資料をデジタルアーカイブしたものを用いた、新しい知的処理も始まりました。



オーラルヒストリーのデジタルアーカイブは、話者の映像や関係図書資料をデジタルで提供するものです。次の世代や地域の人々に伝えることができる、重要な仕事です。



地域文化、観光、いろいろな行事などを撮影記録します。世界への情報発信や次の世代に伝えるために、重要な役割を担っています。

② デジタルアーカイブにおける日本の現状と今後

● 首相官邸ホームページ公開資料

デジタルアーカイブ振興基本法などの制定が検討されています。

我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性 エグゼクティブ・サマリー

平成29年4月

デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会
(事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局)

デジタルアーカイブの活用の対象として、観光、教育、学術、防災などの様々な目的が考えられる。こうした活用を通じて、デジタルアーカイブの構築・共有と活用の循環を持続的なものとし、その便益を博物館・美術館、図書館、文書館、大学、企業、市民コミュニティなどの「アーカイブ機関」を通じて、国民のものとしていくことで、我が国の社会的、文化的、経済的発展につなげていくことが重要である。

本報告書は、平成27年9月に内閣府に設置されたデジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会及び実務者協議会での検討を踏まえ、我が国におけるデジタルアーカイブの構築とその活用促進に関する実務的課題に対する推進の方向性を示すものである。

序章 デジタルアーカイブ社会

デジタルアーカイブは、好きなときに好きな場所から、多種多様な情報・コンテンツへのアクセスを可能とする。また、教育や研究における利用、観光利用、ビジネスでの活用といった様々な活用を通じて、新たな経済的価値を創出し、イノベーションを推進する基盤となる。また、多様なコンテンツへのアクセスがどこからでも可能になり、地域間格差の社会的課題の解決にも資する。こうした基盤を構築することは、国の戦略として重要な取組であり、公的機関がデジタルアーカイブに取り組むことは社会的責務として求められている。

デジタルアーカイブは、活用する者だけでなく、データを提供するアーカイブ機関にとっても、デジタルコンテンツを使ったサービスの充実、来館者数の増加、業務効率化等のメリットがもたらされる。



デジタルアーカイブ社会のイメージ (例)

第1章 現状と課題

1. 諸外国の現状

欧米を中心に、様々な分野・領域のアーカイブ機関が連携して、各機関が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめてインターネットで検索・閲覧できる統合ポータル構築が進んでいる。EUのEuropeanaや米国のDPLA（米国デジタル公共図書館）では、メタデータの集約等を行う「アグリゲーター」（又は「ハブ」）を中核として連携を進めている。また、これらの統合ポータルは、デジタルアーカイブの活用促進に向けて、メタデータのオープン化（クリエイティブ・コモンズのCC0等の表示）やデジタルコンテンツへの利用条件表示を進めている。

2. 日本の現状

分野によっては進んでいる部分もあるが、日本全体として見た場合、海外と比べて、デジタルコンテンツの提供は、量的に十分な状況とはいえない。メタデータの整備・公開も十分とはいえない。書籍等分野のように、メタデータの連携が進められている分野もあるが、分野を超えたデジタルアーカイブ間の連携は、全体としては進んでいない。

活用面においても、EuropeanaやDPLAのように、メタデータをCC0で提供しているところは見当たらない。デジタルコンテンツへの利用条件表示もほとんど行われていない。また、コピーやダウンロード、メール送信ができない、専用ソフトが必要で汎用性がない、外国語（英語等）に対応していないなど、活用する者のニーズに対応できていない場合が多い。

3. 諸外国の現状を踏まえた日本の課題

諸外国の取組に追いつき、より優れたデジタルアーカイブを提供していくうえで、デジタルアーカイブ構築と連携を推進するための仕組み（インセンティブを生み出す仕組み等）の構築、中小機関及び地方における人的・財政的リソースの不足や技術的・法務的課題への対応、メタデータやサムネイル/プレビュー、デジタルコンテンツのオープン化の推進等が必要である。

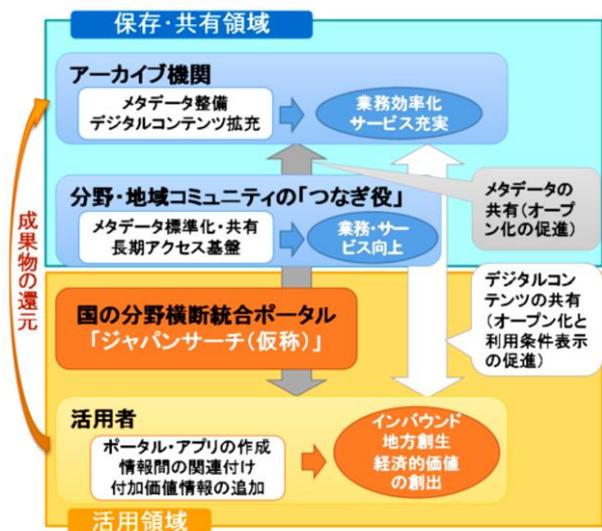
の方向性（機関設置と人材育成）

第2章 我が国におけるデジタルアーカイブ推進の在り方

1. 「共有」が支えるデジタルアーカイブサイクル
分野・地域のコミュニティの内外でのデジタルコンテンツの共有は、デジタルアーカイブにおいて、収集・保存と両輪となり、活用を支え推進するための重要な要素である。この保存・共有・活用のサイクルを、自館、地域・分野コミュニティ、さらには、日本国内、世界へと広げることで、活用の幅が大きく広がっていく。

2. デジタルアーカイブ社会の構築

各アーカイブ機関は、メタデータの整備やデジタルコンテンツを拡充する。分野や地域コミュニティごとの「つなぎ役」（Europeana の「アグリゲーター」、DPLA の「ハブ」に相当）は、メタデータをとりまとめて、国の分野横断統合ポータル（国立国会図書館が検討を進める「ジャパンサーチ（仮称）」）と共有できるようにする。活用者は、ジャパンサーチ（仮称）等を通じて、共有されるメタデータやデジタルコンテンツをデータ提供者のメリットにつながる形で、様々な用途に活用することができる。



デジタルアーカイブの共有と利活用に向けて

3. アーカイブ機関に求められる役割

- アーカイブ機関には、以下の役割が求められる。
- ・本報告書とは別途に取りまとめられた「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」の採用
 - ・**人材の確保及び育成**
 - ・デジタルアーカイブの取組が業績として適切に評価される仕組みの設計（評価指標の見直し）
 - ・海外発信の強化（メタデータの英語又はローマ字表記等）

4. つなぎ役に求められる役割

- つなぎ役には、以下の役割が求められる。
- ・分野・地域の独自性を反映したポータルの整備・提供
 - ・メタデータの整備推進・標準化・用語の統制
 - ・アーカイブ機関におけるメタデータやデジタルコンテンツ等の利用条件表示の推進、オープン化の推進、活用取組の推進
 - ・アーカイブ機関におけるデジタルコンテンツ拡充及び保存に対する技術や法務上の業務支援
 - ・デジタルアーカイブの評価指標の見直しとアーカイブ機関へのインセンティブ付与
 - ・アーカイブ機関の意識啓発・人材育成支援

5. 国や地方自治体等に求められる役割

- 国及び地方自治体は、以下の役割が求められる。
- ・デジタルアーカイブの積極的な活用
 - ・デジタルアーカイブに関わる多様な役割を担う人々のコミュニティの醸成
 - ・アーカイブ機関の課題解決に必要な人的・財政的支援措置及び技術・法務上の業務支援のためのネットワーク整備等

第3章 今後の国の取組の方向性

今後の国の取組の方向性は以下のとおりである。

- ・「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」の策定・普及
- ・保有するデジタル情報資源のオープン化推進
- ・国の統合ポータル「ジャパンサーチ（仮称）」の継続検討
- ・デジタルアーカイブ活用促進のための官民合同フォーラムの設置の検討
- ・つなぎ役の取組支援
- ・**アーカイブ機関の人材教育支援（技術的講習会、研修を行う団体への支援等）**
- ・アーカイブ機関の取組を促進するためのインセンティブ（各種の助成事業の活用や評価に応じた顕彰等）の検討

第4章 残された論点

国家戦略として、アーカイブ機関の取組をさらに強力にけん引するようなビジョンの構築とその実現のための枠組の継続的な検討が必要である。各アーカイブ機関が無理なくデータを整備・共有・連携できる共通基盤（プラットフォーム）の構築についての検討や、長期利用・永続的アクセスを意識した取組についての検討も必要である。

また、つなぎ役の機能を果たす機関を設定することが困難な分野では、関係省庁や自治体が自らポータルを立ち上げることも考えられる。引き続き、分野・地域ごとに、どのような支援策が必要かを確認しながら、本報告書での課題が解決されているかをフォローアップしていく必要がある。

出典：「我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性」

（首相官邸ホームページ）http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/

原稿への下線や朱色は岐阜女子大学が付した。

③ デジタルアーカイブ学会の設立

デジタルアーカイブ学会が 誕生しました！

日本の目指す知識基盤社会を支えるのはデジタルアーカイブといっても過言ではありません。初期の文化遺産を中心とした展示やウェブ公開など提示中心から、いかに社会の全領域で知的生産やナレッジマネジメントに活用できるインターフェイス、横断的ネットワークなどの環境を確保するかの段階に入ったといえます。

しかし、Europeana（ユーロピアーナ）やDPLA（米国デジタル公共図書館）では、膨大なデータが2次利用可能なクリエイティブコモンズCC0（パブリックドメイン）で提供されている中、欧米に比較して日本では基盤整備が遅れています。

このような状況下、岐阜女子大学、東京大学、国立情報学研究所などが中心になって、デジタルアーカイブ学会創設の準備を進めておりました。このたび、関係する大学や研究機関の研究者、博物館・図書館・文書館の実務者、企業アーカイブの担当者、関係企業の開発者など172名が参加し、東京大学情報学環を事務局として2017年4月15日に設立総会が開催されました。

学会は、国内のデジタルアーカイブに関わる関係者の経験と技術を交流・共有し、その一層の発展を目指し、人材の育成、技術研究の促進、メタデータを含む標準化に取り組むことや、国と自治体、市民、企業の連携、オープンサイエンスの基盤となる公共的デジタルアーカイブの構築、地域のデジタルアーカイブ構築を支援し、これらの諸方策の根幹をなすデジタル知識基盤社会の法制度がいかにあるべきかについても検討を行い、デジタルアーカイブの法整備などへの政策提言を積極的に行うことも視野に入っています。

デジタルアーカイブ学会ホームページ

<http://digitalarchivejapan.org/home/>



デジタルアーカイブ学会設立の背景と趣旨（説明）

東京大学大学院情報学環教授 吉見俊哉氏

写真提供：寺師太郎氏

● デジタルアーカイブ学会役員

■ 会長

長尾 真 京都府公立大学法人 理事長・京都大学名誉教授
元京都大学総長・前国立国会図書館長

■ 会長代行

吉見 俊哉 東京大学大学院情報学環 教授

■ 顧問

後藤 忠彦 岐阜女子大学 学長
佐々木 正峰 元文化庁長官
高山 正也 前国立公文書館長

■ 理事

生貝 直人 東京大学大学院情報学環 客員准教授
井上 透 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所 所長・教授
今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所 所長・教授
黒橋 禎夫 京都大学大学院情報学研究科 教授
坂井 知志 常磐大学コミュニティ振興学部・コミュニティ振興学研究科 教授
杉本 重雄 筑波大学図書館情報メディア系 教授
高野 明彦 国立情報学研究所 教授
時実 象一 東京大学大学院情報学環 高等客員研究員
林 和弘 文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席研究官
原田 隆史 同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授
細井 浩一 立命館大学アトリサーチセンター センター長・教授
福井 健策 骨董通り法律事務所弁護士
水島 久光 東海大学文学部 教授
柳 与志夫 東京大学大学院情報学環 特任教授

■ 監事

重田 勝介 北海道大学附属図書館 研究開発室員・准教授
東 由美子 東京大学大学院情報学環 特任講師

■ 事務局

東京大学大学院情報学環 DNP学術電子コンテンツ研究寄附講座

● 岐阜女子大学で2017年7月に第1回研究大会を開催

全体で244名が参加しました。

沖縄から北海道まで全国から、研究者、博物館・図書館・企業・メディア・市町村等の関係者の方にご参加いただきました。

研究発表は、

- ① 広がるデジタルアーカイブ
- ② コミュニティとアーカイブ
- ③ 技術と法制度

の3つのセッションで口頭発表が行われました。

デジタルアーカイブ学会には、「法制度部会」、「技術部会」、「人材育成部会」、「コミュニティアーカイブ部会」の4部会があります。



④ 未来を拓くデジタルアーカイブ

デジタルアーカイブは、今後、わが国の知識基盤社会を支えるものと考えられています。デジタルアーカイブ整備推進法の制定が超党派の議員連盟で検討されるなど、デジタルアーカイブへの注目度は高まっています。今後、ますます、国・県・市町村・図書館・博物館・企業等では、デジタルアーカイブを行える人材=デジタル・アーキビストが必要とされます。

デジタルアーカイブの活用

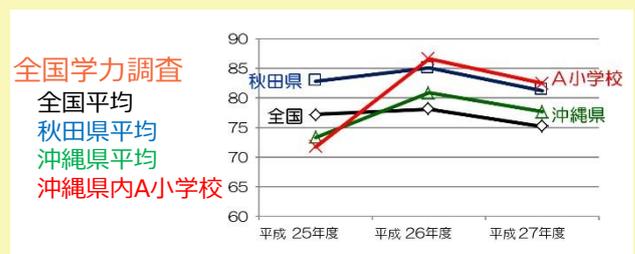
1 冊子やWEBサイトで資料を提供する ～多言語化にも対応～

岐阜女子大学の『沖縄おっらい』は、冊子とWEBサイトの連携による提供により、毎年1万数千人もの人々が活用しています。また、『飛騨おっらい』では、日本語の他に英語・タイ語でも、資料を提供しています。



2 過去の資料を分析して、課題を解決する ～知的処理による課題解決～

岐阜女子大学は、過去の教育資料の知的処理（知的創造・知的生産等）により、沖縄の小学校の子供たちの学力が向上することを実証しました。デジタルアーカイブの知的処理は、学力向上以外に、企業、観光等での活用も期待されています。



デジタルアーカイブに必要な力

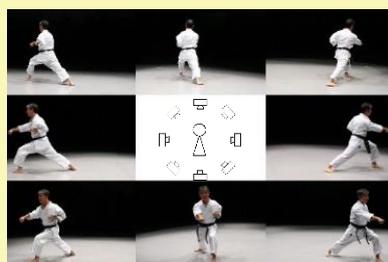
1 資料の歴史的、文化的背景を知る力

各資料の文化的価値を判断し、選定・保存する力が求められます。そして地域の人へのインタビュー等、文化活動を支援できる能力が必要です。



2 資料を正確に収集・記録し、伝える力

舞であれば、所作が全て見える多方向からの撮影記録や映像・文書・音声等で情報を正しく管理して流通できる力などが求められます。



3 国内外で共通利用できる資料をまとめる力

各資料が社内、館内、県内、国内、海外で利活用できるためには、共通に検索でき、正しく活用(著作権等)できる案内(メタデータ)を付ける力が必要です。

